

《担当者名》 教授/齊藤 正人 講師/倉重 圭史 助教/福田 敦史 助教/榊原 さや夏
 非常勤講師/関口 五郎 非常勤講師/坂東 陽月 非常勤講師/野呂大輔 非常勤講師/村井雄司
 非常勤講師/土岐 志麻 名誉教授/五十嵐 清治

【概要】

本科目は、小児の対応法、口腔診査法（医療面接）、乳歯齲蝕の予防と治療、各種の歯冠修復法、歯髄処置、外科的処置の他に、咬合誘導法等について学び、成長発育期の小児の歯科的な治療における基本的術式や手順、内容、留意点等について学習する。

【学修目標】

小児患者が来院した際の一般的な治療の流れと診査法の具体的な方法、手順を覚え、その後の臨床に役立つ基本事項を説明する。

小児齲蝕の各種の予防と抑制法について理解し、どのように適応するか、説明する。

小児の歯冠修復に際し、乳歯、永久歯の特徴を踏えた窩洞形態の特徴と処置法について説明する。

小児の歯内療法（乳歯、幼若永久歯）の一般的特徴をはじめ、その症状と処置法について説明する。

外来でできる簡単な外科処置の基本と処置法を説明する。

外傷歯の症状、診査法、処置法について説明する。

咬合誘導の概念、症状、その処置法について説明する。

小児期に発症する全身疾患について説明する。

児童虐待について説明する。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	前期定期試験解説 第11章 齲蝕の予防と進行抑制 1. 齲蝕予防 2. 齲蝕の進行抑制	小児歯科診療における齲蝕予防の意義と重要性について理解し、その具体的な方法について説明できる。 (E-4-2)- , 小児のブラッシング指導及びその他の補助的清掃法の指導の実際について説明できる。 (B-3-2)- 食生活、特に間食と小児齲蝕との関連性について理解し、齲蝕発生を抑制する手段としての食生活指導の重要性について説明できる。 (B-3-2)- ,) フッ化物を応用した齲蝕予防の機序と実際について説明できる。 (E-4-2)- , ,B-3-2)-) 窩溝填塞法の目的と方法について説明できる。 (B-3-2)-) 「小児歯科学ベーシックテキスト」P.198-214 「小児歯科学クリニカルテキスト」P.2-7	齊藤 正人 福田 敦史 倉重 圭史 榊原 さや夏
2 { 3	第13章 歯内療法 1. 乳歯の歯内療法 2. 幼若永久歯の歯内療法	乳歯の歯内療法の目的と、永久歯歯内療法との相違点、考え方について説明できる。 (E-4-2)-) 乳歯の歯髄炎及び根尖性歯周炎の診断、特徴、治療法について説明できる。 (E-4-2)- ,) 歯内療法の各法について、適応症と非適応症、臨床術式について説明できる。 (E-4-2)-) 小児の歯内療法に用いられる薬剤の所要性質について説明できる。 (E-4-2)-) 幼若永久歯の特殊性、歯髄処置における考え方、歯内療法の実際について説明できる。特に、apexification及びapexogenesisの概念について説明できる。	齊藤 正人 福田 敦史 倉重 圭史 榊原 さや夏

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
		(E-4-2)- ,) 「小児歯科学ベーシックテキスト」P.241-273 「小児歯科学クリニカルテキスト」P.32-51	
4 { 5	第12章 小児の歯冠修復 1. 齲蝕治療の基本 2. 乳歯の歯冠修復 3. 幼若永久歯の歯冠修復	乳歯の歯冠修復の目的と、永久歯歯冠修復との相違点、考え方について説明できる。 (E-4-2)-) 各種修復材料別に、その特徴、適応症と非適応症、臨床術式について説明できる。 (E-4-2)-) 幼若永久歯の特殊性、歯冠修復における考え方、歯冠修復法の実際について説明できる。 (E-4-2)-) 「小児歯科学ベーシックテキスト」P.216-240 「小児歯科学クリニカルテキスト」P.2-29	齊藤 正人 福田 敦史 倉重 圭史 榊原 さや夏
6	第17章 咬合誘導 1. 咬合誘導とは 2. 咬合誘導のための診察・検査・診断 3. 静的（受動的）咬合誘導 4. 動的（能動的）咬合誘導法 5. 口腔習癖の処置	咬合誘導の概念と意義・目的について理解し、咬合誘導の実際について説明できる。 (E-4-2)-) 歯列及び咬合の異常の診察と診断、治療方針の決定について説明できる。 (E-4-1)- ,E-4-2)-) 歯列及び咬合の異常を引き起こす各種の原因について説明できる。 (E-4-1)- ,E-4-2)-) 保険の目的、保険装置の種類と適応について説明できる。 (E-4-2)-) 動的咬合誘導の目的と適応、方法について説明できる。 (E-4-2)-) 各種の口腔習癖と、それによって引き起こされる歯列不正との関係について理解し、その対処法について説明できる。 (E-4-2)-) 「小児歯科学ベーシックテキスト」P.328-358 「小児歯科学クリニカルテキスト」P.88-116 「小児歯科疾患の診断と治療」P.176-219	齊藤 正人 福田 敦史 倉重 圭史 榊原 さや夏
7	第10章 診察・検査・治療計画 1. 診断に必要な診察 2. 診断に必要な検査と資料 3. 診察計画立案の基本 第14章 外科的処置 1. 局所麻酔 2. 乳歯の抜歯 3. リスクマネージメント 4. 過剰歯の抜歯 5. 小児への薬物療法	前期定期試験の解説から学生自身の理解度を評価できる。 すべての診療の基礎となる正しい診察と診断の重要性について説明できる。 (E-1-1)- ~) 診断から治療方針の決定、治療計画の立案までの流れを理解し、そのポイントについて説明できる。 (E-1-1)- ~) 小児歯科診療における患者教育（保護者に対する教育）、定期検診（リコール）の意義と重要性について説明できる。 (E-1-1)- ~) 「小児歯科学ベーシックテキスト」P.184-196 小児の外科的処置の中でも大半を占める乳歯の抜歯について説明できる。 (E-1-5)-) 乳歯抜歯の目的、適応症、非適応症、臨床術式、抜歯時及び抜歯後の注意点について説明できる。 (E-1-5)- , E-1-4)-(3)-) 過剰歯及び埋伏歯の処置法について、説明できる。 (E-1-5)-)	齊藤 正人 福田 敦史 倉重 圭史 榊原 さや夏

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
		<p>小児の生理学的特性と関連付けて小児への投薬時の注意点について説明できる。</p> <p>(C-6-3)-)</p> <p>「小児歯科学ベーシックテキスト」P.276-292</p> <p>「小児歯科学クリニカルテキスト」P.54-60</p>	
8	<p>第15章</p> <p>顎骨と口腔軟組織の疾患</p> <p>1. 骨の疾患</p> <p>2. 口腔軟組織疾患</p>	<p>小児の口腔領域にみられるその他の疾患・異常の種類と処置法について説明できる。</p> <p>(E-4-2)-(3)- ,)</p> <p>「小児歯科学ベーシックテキスト」P.294-306</p> <p>「小児歯科学クリニカルテキスト」P.62-73</p>	<p>齊藤 正人</p> <p>福田 敦史</p> <p>倉重 圭史</p> <p>榊原 さや夏</p>
9 { 10	<p>第16章</p> <p>歯の外傷</p> <p>1. 小児の歯の外傷の疫学</p> <p>2. 歯の外傷の分類</p> <p>3. 外傷の診察・検査と診断</p> <p>4. 外傷永久歯の処置と経過</p> <p>5. 外傷乳歯の処置</p> <p>6. 外傷歯の後遺症</p> <p>7. 小児外傷の予防</p>	<p>小児における乳歯及び永久歯の外傷について、その疫学的特徴、影響、分類、診査・診断、処置法について説明できる。</p> <p>(E-4-2)-)</p> <p>「小児歯科学ベーシックテキスト」P.308-325</p> <p>「小児歯科学クリニカルテキスト」P.76-86</p>	<p>齊藤 正人</p> <p>福田 敦史</p> <p>倉重 圭史</p> <p>榊原 さや夏</p>
11 { 12	<p>第20章</p> <p>心身障害児への歯科的対応</p> <p>1. 障害の定義・概念</p> <p>2. 心身障害児への歯科的な対応の基本</p> <p>3. 主な障害の口腔内所見とその対応</p>	<p>心身に障害を持つ小児の特徴（全身所見、歯科的所見）及び歯科診療上の問題点、対応法について説明できる。</p> <p>(E-4-2)- ,E-5-2)- ~)</p> <p>「小児歯科学ベーシックテキスト」P.380-396</p>	<p>齊藤 正人</p> <p>福田 敦史</p> <p>倉重 圭史</p> <p>榊原 さや夏</p>
13 { 14	<p>第21章</p> <p>小児の注意すべき全身疾患と口腔所見</p> <p>1. 遺伝性疾患</p> <p>2. 染色体異常</p> <p>3. 感染症</p> <p>4. 免疫疾患</p> <p>5. 内分泌疾患</p> <p>6. 血液疾患</p> <p>7. 呼吸器疾患</p> <p>8. 循環器疾患</p> <p>9. 腎疾患</p> <p>10. 代謝障害</p>	<p>各種の遺伝性疾患や先天性疾患、小児期によくみられる感染症、その他の疾患について、その概念、全身所見、歯科的所見及び歯科診療上の問題点、対応法について説明できる。</p> <p>(E-1-4)-(1)- ,E-6-)</p> <p>「小児歯科学ベーシックテキスト」P.398-423</p>	<p>齊藤 正人</p> <p>福田 敦史</p> <p>倉重 圭史</p> <p>榊原 さや夏</p>
15	<p>第18章</p> <p>摂食・嚥下機能発達障害</p> <p>1. 小児の摂食・嚥下障害</p> <p>第19章</p> <p>顎関節症</p> <p>1. 顎関節症</p> <p>第22章</p> <p>児童虐待</p> <p>1. 児童虐待の歴史</p> <p>2. 児童虐待の概念</p> <p>3. 児童虐待の分類</p> <p>4. 児童虐待の疫学</p> <p>5. 児童虐待の発生要因</p> <p>6. 被虐待児及び虐待者にみられる特徴</p> <p>7. 児童虐待の心身への影響</p>	<p>小児の摂食・嚥下発達について説明できる。</p> <p>(E-5-2)-)</p> <p>小児の摂食・嚥下発達障害の対応について説明できる。</p> <p>(E-5-2)- ,)</p> <p>小児の窒息・誤嚥への対応について説明できる。</p> <p>(E-5-2)-)</p> <p>小児の顎関節症の疫学的特徴を説明できる。</p> <p>小児の顎関節症の臨床的特徴を説明できる。</p> <p>小児の顎関節症の管理を説明できる。</p> <p>(E-2-4)-(7)- ,)</p> <p>「小児歯科学ベーシックテキスト」P.360-378</p> <p>小児の虐待の徴候と対応を説明できる。</p> <p>(E-4-2)-)</p> <p>「小児歯科学ベーシックテキスト」P.426-432</p> <p>これまでの講義内容の理解度を確認するために、</p>	<p>齊藤 正人</p> <p>福田 敦史</p> <p>倉重 圭史</p> <p>榊原 さや夏</p>

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
	8. 児童虐待への歯科医としての対応 まとめ・定期試験対策	小テストの実施と解説を行い、学生自身の理解度を評価できる。	

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

定期試験（90％）、小テスト（10％）

【教科書】

「小児歯科学ベーシックテキスト」永末書店
「小児歯科学クリニカルテキスト」永末書店
「小児歯科学基礎実習ノート」小児歯科学分野 編
その都度講義プリントを配布する。

【備考】

個人情報（患者情報）保護のため、スライドや講義内容などの写真撮影や録音などを禁ず。

【学修の準備】

予習として、指定した教科書の項目を事前に必ず読んでおく。（45分）

復習として、前回学習した内容について指定した教科書の項目を読んでおく。（45分）

【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

DP1. 人々のライフステージに応じた疾患の予防、診断および治療を実践するために基本的な医学、歯科医学、福祉の知識および歯科保健と歯科医療の技術を習得するために小児歯科学を学修する（専門的実践能力）。

DP2. 「患者中心の医療」を提供するために必要な高い倫理観、他者を思いやる豊かな人間性および優れたコミュニケーション能力を小児歯科学の観点から身につける（プロフェッショナリズムとコミュニケーション能力）。

DP3. 疾患の予防、診断および治療の新たなニーズに対応できるよう生涯にわたって自己研鑽し、継続して自己の専門領域を発展させる能力を小児歯科学の観点から身につける（自己研鑽力）。

DP4. 多職種（保健・医療・福祉）と連携・協力しながら歯科医師の専門性を発揮し、患者中心の安全な医療を実践するために小児歯科学を学修する（多職種が連携するチーム医療）。

DP5. 歯科医療の専門家として、地域的および国際的な視野で活躍できる能力を身につけるために小児歯科学を学修する（社会的貢献）。

【実務経験】

齊藤正人（歯科医師）、倉重圭史（歯科医師）、村田幸枝（歯科医師）、福田敦史（歯科医師）、榊原さや夏（歯科医師）、非常勤講師 / 関本恒夫（歯科医師）、非常勤講師 / 関口五郎（歯科医師）、非常勤講師 / 坂東 陽月（歯科医師）、非常勤講師 / 野呂大輔（歯科医師）、非常勤講師 / 土岐志麻（歯科医師）、名誉教授 / 五十嵐清治（歯科医師）

【実務経験を活かした教育内容】

小児歯科学とは、小児の口腔機能の正常な発育を図るために、これを障害する異常や口腔疾患の予防と治療を行い、健全な機能をもつ総合的咀嚼器官を育成し、小児の全身の発育と保健に寄与する科目である。多くの実務経験を背景とした経験談や症例を提示することで、優れた教育効果が期待できる内容となっている。